

2019年12月18日

## 第1回 地域プロモーション大賞 決定!

主催：一般財団法人地域活性化センター 後援：時事通信社、共同通信社  
協力：城西国際大学メディア学部、立教大学観光学部、(株)JTБ 総合研究所

一般財団法人地域活性化センターでは、地域の魅力を国内外に発信する広報 PR 活動の一助とするために、地域プロモーション事業の推進を行っています。その一環として、令和元年度より、優れた PR 動画やパンフレットを表彰する「地域プロモーション大賞」を実施いたしました。

この度、各賞が決定しましたのでご報告いたします。第1回の大賞に輝いたのは、ふるさと動画大賞はサーフィンにフォーカスした宮崎県日向市の作品、ふるさとパンフレット大賞（実質的に第7回目）は、全編イラストを用いた大分県豊後高田市の作品が受賞いたしました。詳細につきましては下記の通りです。貴メディアで、取り上げていただければ幸いです。

なお、大賞受賞団体の表彰式を2020年2月7日（金）に早稲田大学日本橋キャンパスにて開催予定です。

記

1. 名称 「第1回 地域プロモーション大賞」
2. 目的 動画やパンフレットを活用して、優れた地域のプロモーションを行っている団体を表彰し、その取り組みを他地域の参考としてもらう。
3. 各賞大賞

### 第1回ふるさと動画大賞 大賞



### 第7回ふるさとパンフレット大賞 大賞



#### 《優秀賞》 大分県

「Welcome Oita Wonders

～ "Heavenly Hell" OITA」

応募数 156点

#### 《箭内道彦賞》 長野県上田市

「BLACK BOTTOM BRASS BAND と巡る

上田～塩田・別所地域 in Autumn」

#### 《及川卓也賞》 島根県雲南市

「雲南市観光 PV」

#### 《谷中修吾賞・津田千枝賞》 静岡県富士宮市

「富士宮市 夏秋 フルバージョン

国立公園満喫プロジェクト」

#### 《地域活性化センター賞》 鹿児島県与論町

「Yoron Island Japan in 8K HDR - 与論島」

受賞動画は Youtube でご覧いただけます! ⇒



#### 《優秀賞》 長崎県松浦市

「meets!まつら vol.14」

応募数 85点

#### 《南 伸坊賞》 奈良県王寺町

「奈良県王寺町で楽しむ世界遺産ビュー 明神山」

#### 《楓 千里賞》 鹿児島県奄美市

「SHIMA-JIMAN(シマージマン)

奄美市一集落 I ブランド」

#### 《パクン賞》 東京都奥多摩町

「BLUE+GREEN JOURNAL #6」

#### 《マクン賞》 福井県池田町

「池田のきほん」

#### 《地域活性化センター賞》 鹿児島県和泊町

「OKINOERABU SAIGOU GUIDE BOOK

～南の島と「西郷どん」～」

4. 詳細情報は、地域活性化センターHPもご覧ください! <http://www.jcrd.jp/>

お問い合わせ先：一般財団法人 地域活性化センター 情報・広報グループ 広報室 山口、吉岡

電話：03-5202-6137 メール：kouhou@jcrd.jp

# 第1回ふるさと動画大賞 入賞作品

《大賞》宮崎県日向市

「Net surfer becomes Real surfer」



《優秀賞》大分県

「Welcome Oita Wonders ~ "Heavenly Hell" OITA」



《箭内道彦賞》長野県上田市

「BLACK BOTTOM BRASS BANDと巡る  
上田～塩田・別所地域 in Autumn」



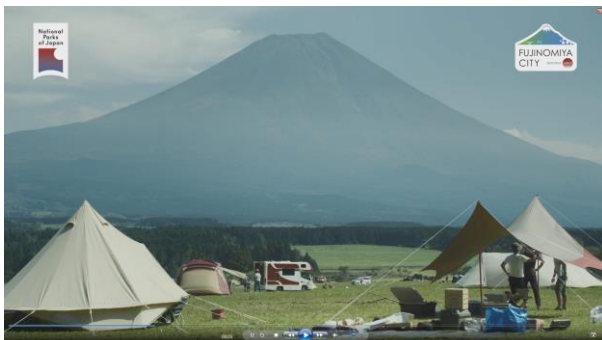
《及川卓也賞》島根県雲南市

雲南市観光 PV



《谷中修吾賞・津田千枝賞》静岡県富士宮市

「富士宮市 夏秋 フルバージョン  
国立公園満喫プロジェクト」



《地域活性化センター賞》鹿児島県与論町

「Yoron Island Japan in 8K HDR - 与論島」



受賞動画はYoutubeでご覧いただけます!! ⇒



# 第1回ふるさと動画大賞 選考委員講評

## 《選考委員》

委員長： 箭内 道彦 氏(クリエイティブディレクター、東京藝術大学美術学部デザイン科教授)

委員： 及川 卓也 氏(マガジンハウス コロカル事業部部長・編集長)

谷中 修吾 氏(一般社団法人INSPIRE 代表)

津田 千枝 氏(AP通信 海外広報サービス アジアセールスマネジャー)

北村 潤一郎 (一般財団法人地域活性化センター 常務理事)



左から 北村委員、谷中委員、箭内委員長、津田委員、及川委員

## 《箭内 委員長》

### ◎総評

比べられない。どのふるさととも素晴らしく、人が生きている。輝いている。順番つけるのは間違っている。そのことを強く感じる審査だった。

一方で、全部の作品が似ているとも感じた。それじゃまだ、それぞれが抱える課題の解決にはリアルに結びつかない。

その地にしか言えないこと、その地でしか会えない人・時間・風景、それを、その地にしかできない唯一無二の伝え方で、思い切って届けて欲しい。きっとできるはず。驚きたい。今回の賞が、その始まりのきっかけになれば嬉しい。

### ◎個人賞

動画が作られていくワークショップの過程で、上田市に「新しいこと」がすでに始まっていると感じた。動画制作が素晴らしい副産物を産んだ好例。ただ、尺が長いのが勿体ない。参加者全員を映してあげたくてカットしづらかったのでは。この1/5くらいの尺のほうが強く伝わる。

## 《及川 委員》

### ◎総括

多くの自治体や団体が動画による発信に取り組まれていることが応募数からわかります。最終審査に残った作品はどれも工夫を凝らし、地域の魅力をさまざまな手法で浮かび上がらせており、審査は非常に難しいものでした。ただし、プロモーションの全体フォーマットの中で、動画の位置付けが曖昧なのではという印象も受けました。メディアでは、(非常に単純化して言えば)大別して二つのアプローチがあり、それは<感性的な訴求>と<情報伝達>です。映像はその前者を担うものとして存在し、情報を盛り込もうとすると、冗長になったり説明的になったりして魅力を失う場合があります。映像と他コンテンツをどう組み合わせると効果的フォーマットにしていくかの戦略が大切だと感じました。

大賞に選ばれた日向市の映像は、時間の経過を編集し、ストーリー性を高めています。地域に暮らし働く地元だからこそできる、定点観測的な、時間を丁寧にかけるという方法は有効だと感じました。

### ◎個人賞

雲南市の『HISTORY & NATURE UNNAN』は、ヤマタノオロチ伝説、たたら製鉄、里山や棚田の自然を淡々とですが、美しく捉えています。解説も字幕でミニマムに編集し、雲南市を知りたいと思わせるゲートウェイとしての役割を担える映像だと思いました。英語バージョンを活用して、海外発信を強化することも効果的だと思います。

## 《谷中 委員》

### ◎総評

地域プロモーションにおいて動画を有効に活用するためにも、人に見られる“シチュエーション”を意識した動画づくりが求められます。圧倒的な拡散性を考えれば、SNS での動画視聴を前提とした制作は極めて重要でしょう。一瞬で視聴者の心を動かし、フル再生されるという動画を強く意識する必要があります。その観点では、大賞を受賞した日向市の動画の完成度は、今回のエントリー作品の中では群を抜いていました。冒頭のつかみもさることながら、サーフィンを舞台に次々と展開されるストーリーに釘付けとなり、「日向市に行ったら、こういう世界観があるのだな。行ってみたいな」と思えました。

また、優秀賞を受賞した大分県の動画は、“Heavenly Hell”に絞ったメッセージが短い尺で心地よく伝わり、外国人の友人にシェアしたくなります。その地域にしかない「オンリーワン」の一点突破で訴求ポイントを際立たせ、60~90 秒程度の尺で SNS 最適化を図ることは、今後の動画づくりの KSF になるでしょう。

※KSF(Key Success Factor): 事業を成功させるための必要条件

### ◎個人賞

富士宮に呼び込みたい外国人旅行者を強く意識した上で、実際に地域を旅している自分の姿を投影できる動画に仕上がっていることが素晴らしいです。数多ある旅先候補の中で外国人旅行者が富士宮を選ぶ理由になり得るポイントを検討すると、やはり富士山という分かりやすいコンテンツは強いいため、動画の中で常に「Mt.Fuji」をちらつかせるブランディングを行うことも有効かと思います。結果として、自然な形で富士宮(Fujinomiya)の名前の印象付けがなされていくと、実際にインバウンドが機能していくと感じます。



## 《津田 委員》

### ◎総評

今回の初の動画コンテストは、地方自治体が動画制作に対してこれから取り組むべき課題が再確認できた、素晴らしい機会になったと思います。最終審査に残った動画を拝見した審査員の感想は、「どれも同じに見えた」「これなら 1 分にまとまる」でした。これは私が常にお伝えしている、「ストーリー性」と「引き算」が欠けているからでしょう。またドローンの多用、音楽選択も課題です。各自治体は税金を有効に使うために、予算取りの段階からプロにアドバイスを受け、大きく方向転換する必要があると思います。

その中で大賞に選ばれた「日向市」は、ストーリー性があり、海好きなら行ってみたい、移住してみたいと思わせる動画構成でした。最初の4~8秒をより工夫し、全体の尺を2分ほどにまとめると、よりわかりやすい動画になるでしょう。優秀賞の「大分県」は、私がコンサルティングで関わった動画ですので、他の審査員の講評を参考にいただければ幸いです。

### ◎個人賞

国立公園をテーマに取り上げ、こんなことができるんだという自分を投影できるインバウンド向けの映像作りがよかったです。私なら更に 2 点工夫します。①国際空港(成田空港)からレンタカーを借りて楽しむという旅のコンセプトを、最初でもっと短くはっきりわかる工夫。②外の景色や遊び、そして室内や食事も必ずがどこかに富士山が見えるものだけに絞り、とことん「富士山三昧の旅」で 1 分動画を作成。よりパワフルでスマホで見やすく、拡散されやすい動画になるでしょう。

## 《北村 委員》

### ◎総評

各作品とも非常にレベルが高く、それぞれの地域の持つ魅力を、工夫を凝らしながら存分に表現されていることに驚かされた。特に印象に残った作品の中には、地域の持つイメージと実際の姿のギャップをうまく浮かび上がらせたもの、地域の風景に歴史を重ね合わせ映像に厚みをもたせたもの、テーマの絞り込みが奏功し地域の魅力がストレートに訴えかけてくるもの、などがあり、大いに楽しませてくれた。

その中で大賞を獲得した日向市の作品は、どこにでもいる平凡な青年(日常)と華麗なるサーファー(非日常)の世界がテンポよく交錯し、やがて成長していく姿に思わず感情移入する自分がいた。日向灘でサーフィンしてみたいと思った時点で、作者の思うツボなのだろう。優秀賞の大分県の作品は、短い時間の中で、「地獄のような楽園」というメッセージがうまく伝わって来た。こんな地獄になら堕ちてみたい。

### ◎個人賞

与論町の作品は、与論島の素晴らしい自然や暮らしが持つ魅力が余すところなく表現されており、圧倒的なインパクトがあった。突き抜けるように青く、そしてどこまでも透明な海、見たこともないような星空、ここでしか味わえない魅力的な食材など反則レベルのコンテンツが次々と繰り出され、これでもかと南の島に誘う映像に、都会ぐらしに疲れた我が身としては贖うことができそうもない。

# 第1回地域プロモーション大賞 受賞団体コメント

(第1回 ふるさと動画大賞)

## 【大賞】宮崎県日向市 《Net surfer becomes Real surfer》

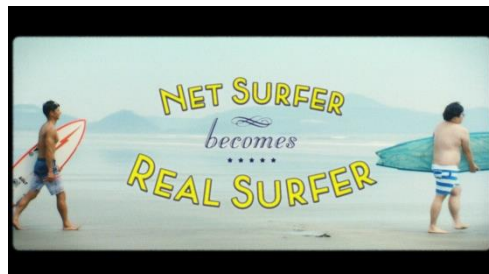
このたびは、「第1回ふるさと動画大賞」という大変すばらしい賞を賜り、誠にありがとうございます。

宮崎県日向市は、国際サーフィン大会なども開催される全国有数のサーフスポットを有し、多くのサーファーで賑わっているまちであります。

今回、受賞しました動画は、都会から来た青年がサーフィンに出会い、リアルなサーファーになっていく様子をドキュメンタリータッチで制作するなかで、日向の海のすばらしさ、市民のやさしさを感じてもらえるような物語となっております。

また、若山牧水の生地、ひょっとこ踊り、基石など、当市の従来の地域資源を動画に織り込み、これらをわかりやすく伝えることに努めました。

この動画を見ていただき、多くの方に共感いただくとともに、ぜひ、日向市にお越しいただき、のんびりした時間の中で、自分の新しい一面を知るような機会を作っていただきたいと思います。



## 【優秀賞】大分県 《Welcome Oita Wonders ~ "Heavenly Hell" OITA》

この度は、記念すべき第1回ふるさと動画大賞において栄えある「優秀賞」をいただき、誠にありがとうございます。

大分県は、九州の北東部に位置し、豊かな天然資源、歴史文化、魅力的な食などに恵まれた地域で、日本一の源泉数と湧出量を誇る「おんせん県おおいた」として知られています。

今回のラグビーワールドカップ大分開催や2020年の東京オリンピック・パラリンピックを好機と捉え、世界中の方々に広く大分を知ってもらうため「色んな WOW の旅」をテーマに、大分県でしか体験できない自然風景や文化、観光資源等を外国人旅行者の視点で紹介するPVを制作しました。

今回の受賞を機に、世界中の多くの皆様に動画をご覧いただき、実際に大分県を訪れて「それぞれのWOW の旅」を体験していただければ幸いです。



## 【箭内道彦賞】長野県上田市

### 《BLACK BOTTOM BRASS BANDと巡る上田～塩田・別所地域 in Autumn》

この度は「箭内道彦賞」をいただき、誠にありがとうございます。

大河ドラマ『真田丸』でも話題となった長野県上田市は、



県の東側に位置し、豊かな土壌と穏やかな気候が育んだ野菜や果物を中心に、地酒、信州そば、そして国内屈指の松茸の産地としても知られています。また歴史ある名湯や湯治場、「信州の鎌倉」と称される塩田地域の神社・仏閣などに、毎年多くの観光客が訪れます。

今回の動画には、上田市に一定期間滞在し公演やワークショップを行うアーティストと、全国から一般公募で集まった皆さんが、楽器演奏のワークショップと録音・撮影に参加。市内の観光地などを巡る旅という設定で制作しました。上田市の「ひと・まち・文化」を、アートの側面から伝えることに重点を置き、市外に向けて単に観光地を紹介するだけではなく、この動画を通じてひととまちに新たな交流が生まれることも願った制作となりました。

多くの方が、この動画をご覧になって上田市の魅力を感じていただけたら何よりです。

### **【及川卓也賞】 島根県雲南市 《雲南市観光PV》**

この度は、「及川卓也賞」を賜り、誠にありがとうございます。

雲南市は、島根県の東部に位置し、南部は広島県に接しています。動画内にも登場する出雲神楽は、古事記や日本書紀にも記されている出雲神話を題材としており、ヤマタノオロチ退治は、市内を流れる斐伊川が舞台となっています。



また市内には、かつてたたら製鉄が操業されていた高殿施設が唯一現存する「菅谷たたら山内」や中国随一の名瀑「龍頭が滝」など多くの見どころもあります。

まもなく、“桜守”も見守る「斐伊川堤防桜並木（日本さくら名所百選）」の桜が開花すると、雲南市が一番輝く季節を迎えます。

この動画をご覧いただいた皆様もぜひ歴史・文化が息づく雲南市へお越しください。

### **【谷中修吾賞・津田千枝賞】 静岡県富士宮市**

#### **《富士宮市 夏秋 フルバージョン 国立公園満喫プロジェクト》**

海外の人に「富士宮市なら日本の自然や文化が満喫できる」ということを伝えたくて、この動画を作りました。

そのため、富士山の雄大さや朝霧高原の広大な風景、水のきれいさなどを、ただ見せるのではなく、自然との関わり方や楽しみ方、そこに暮らす人々の生活や文化が、映像から伝わる作品としました。



このたびの受賞で、古くから自然や文化を大切にしてきた富士宮市民の思いを、より多くの人に伝えられることができ、とても嬉しいです。

ぜひ、空港からキャンピングカーで富士宮市へ来てみてください。富士山とともにお待ちしております。

このたびは、「谷中修吾賞」「津田千枝賞」をいただき、誠にありがとうございました。

**【地域活性化センター賞】鹿児島県与論町 《Yoron Island Japan in 8K HDR - 与論島》**

この度は、「地域活性化センター賞」をいただき、誠にありがとうございます。

与論島は鹿児島県最南端の小さな島ですが、与論ブルーと称される七色に変化する透明度抜群の海、極上のプライベート感が味わえる大小60の砂浜、星が降ってくると言われるほどの満天の星空、ここでしか食べられない特産品



など、ここにしかない魅力が数多く存在する島です。ヨロン8K は、これらの魅力を多くの方々に知っていただくために、8K機材を駆使した本格映像により、まるで与論島を旅しているかのような旅行者目線で制作を行いました。

今回の受賞を機に、この映像がさらに多くの方々に届き、一人でも多くの方に本町の魅力を感じていただくとともに、実際に来訪され本町の魅力を直に体験しにお越しいただくことを、心よりお待ちしております。



# 第7回ふるさとパンフレット大賞 入賞作品

《大賞》大分県豊後高田市

「豊後高田!あるある本」



《優秀賞》長崎県松浦市

「meets!まつら vol.14」



《南伸坊賞》奈良県王寺町

「奈良県王寺町で楽しむ世界遺産ビュー 明神山」



《楓千里賞》鹿児島県奄美市

「SHIMA-JIMAN (シマージマン)

奄美市一集落 | ブランド」



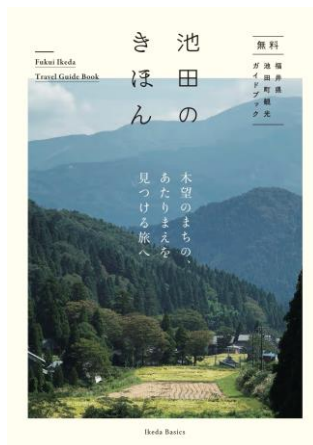
《パッケン賞》東京都奥多摩町

「BLUE+GREEN JOURNAL #6」



《マックン賞》福井県池田町

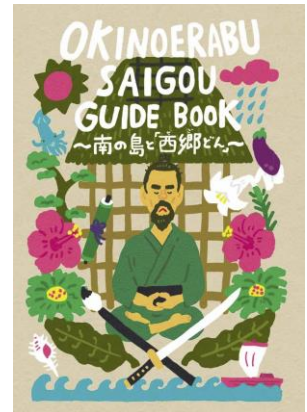
「池田のきほん」



《地域活性化センター賞》鹿児島県和泊町

「OKINOERABU SAIGOU GUIDE BOOK

～南の島と「西郷どん」～」



## 第7回ふるさとパンフレット大賞 選考委員講評

### 《選考委員》

委員長：南 伸坊 氏(イラストレーター)

委員：楓 千里 氏(株式会社JTBパブリッシング エグゼクティブ・アドバイザー)

パクン 氏(お笑いコンビ パクンマクン)

マクン 氏(お笑いコンビ パクンマクン)

北村 潤一郎 (一般財団法人地域活性化センター 常務理事)



左から 北村委員、マクン委員、南委員長、パクン委員、楓委員

### 《南 委員長》

#### ◎総括

パンフレットは、まず手に取ってもらわなければ、そこから先の展開はありません。面白そうだったり、キレイだったり、思わずほしくなる要素が必要です。

今年人気があったのは、イラストのインパクトでした。大賞の「豊後高田!あるある本」は関心させたり、感動させたりというよりも元気の良い、オシャベリの、肉声のおもしろさ、という感じ。雑然としているし、全然小綺麗じゃないんだけど、思わず話に引き込まれるナマの魅力があります。最後の見開きに「ちゃんとしたまとめ」が入っているのも微笑ましい。

優秀賞の「アジフライの聖地・長崎松浦」は、まずアジフライに特化したところがお手柄です。写真を使った「プレ宣言書」と「食べ歩きMAP付!」の「宣言書」がセットになっています。この宣言書の方のイラストが独特の魅力のある絵で楽しく見せる工夫が成功しています。

#### ◎個人賞

正方形の紙を対角線状に二つ折りしただけの1枚のパンフレットですが、折ったことによって「明神山」標高 273.6m の「山」のイメージを思わずだけでなく、三角の形状が目を引きます。しかもそれを広げると、ちょうど東西南北に分割して、頂上からの眺望の見取り図の機能も兼ねている。裏側にも写真や「世界遺産ビュー」を楽しむ方法が説明されていて、ただ1枚のリーフレットを十二分に活用しています。そのアイデアが素晴らしい。

## 《楓 委員》

### ◎総評

活字、書き文字、イラストを縦横無尽に使い、これでもか、これでもかと豊後高田の自慢ネタと自虐ネタを織り交ぜている大賞受賞パンフレットには底知れぬ、パワーを感じました。制作者の皆さんが大笑いしながら編集している姿が想像できます。市民の皆さんも面白がって手にされていると思います。豊後高田を知らない方を、一目で惹きつける作戦は十分に成功しているのではないのでしょうか。

イラストと写真表紙の2部方式を上手く使った、優秀賞の松浦アジフライ宣言書も大賞と同じ系統で、手にした人に「これは何？」と疑問と関心を持たせる仕掛けが効いています。真面目な正統派から、ギャグや可笑しさを取り入れたパンフレットがトレンドになっているのかもしれませんが。来年の傾向も楽しみです。

### ◎個人賞

奄美大島市の「SHIMA-JIMAN」(シマジマン)は大賞作品とは違い、島自慢を素直に編集している正統派です。島の伝統行事やお祭りに参加する方を写真ではなく、ご本人に良く似たイラストで表現しているのが特徴。このイラストのおじさん、おばさんの柔らかい笑顔が、紙面から滲み出ている、傍にお邪魔したい、一緒に踊ってみたいとの気持ちにさせてくれます。シマごちそう、シマ商店、歴史、文化、自然を写真やイラストを大胆に使って紙面に変化を付けた雑誌風の作りで、読み応えもあります。本文の文字の小ささが気になりますが、ビジュアル重視であれば納得です。奄美大島を知るための保存版として、長く手元に置いておきたい一冊です。

## 《パクン 委員》

### ◎総評

写真と文章だけで読む人を惹きつける、パンフレットの力はすごい!もちろん、観光促進として「あそこ、行ってみたい」と思わせるのが狙いだが、行ったことがないのに、なんとなく「あそこ、知っている!」、「あそこ、好き!」と思わせる効果もある。今回の大賞の作品は、豊後高田の存在に初めて気づかされた僕でも「あるある」と、笑いながら不意に頷ける内容だった。

### ◎個人賞

パクン賞は、実際に行っている地域だが、紙の触り心地からも、ゆとりのあるレイアウトからも、被写体の自然な姿からも、奥多摩の本質を感じ取れる力作だ。パンフレットをめくっていくと、いつのまにか、静かな山々に囲まれている錯覚が起きるぐらい魅了された。各地のパンフレットに各地の魅力が結集されている。観光客だけでなく、地元の皆さんにも手に取って、それをもう一度確認していただきたい。

## 《マクン 委員》

### ◎総評

パンフレット大賞も7回目ということで、浸透してきたのでしょうか、過去の最優秀賞、優秀賞、各賞などを参考にしたり、意識したようなパンフレットが結構ありました。しかしただ単に参考にするのではなく、オリジナリティを加えるなどして、パンフレット作りに力を注いでいるのが伝わってきました。ゆえに、見ごたえのあるパンフレットが増え、選考も年々難しくなっています。今回、最優秀賞の豊後高田は、地元ならではの、あるあるネタを自虐的に活字にして上手く表現し、見る側を豊後高田ワールドに引き込んでくれるパンフレットでした。観光して「あるある」を体験したい。移住して「あるある」を体験したい。どちらにしても「一回行ってみたいな〜」という魅力を感じる一冊でした。

## ◎個人賞

マックン賞にした福井県の池田町の「池田町のきほん」のパンフレットを見始めるとまず目に入るのが「木」そして町の9割が森林という情報が目に飛び込んできて「きほん」の「き」は「木」というのが分かりました。池田町で生活する人々、食文化、そこに生息する動植物など、全てが「木」に繋がっていて「池田に行けば木と触れ合える。木のある生活をしたかったら池田に行けばいい」と感じる一冊でした。

小学生の子を持つ父親の個人的な意見ですが、「小学校に入学するとマイ机がもらえます」という言葉に魅かれ、そんな環境で子供を育ててみたいな～って思いました。

## 《北村 委員》

### ◎総評

どのパンフレットも、限られた予算の中でできる限りの創意と工夫に溢れており、大賞の選考プロセスは実に楽しいものとなった。印象的な写真を配置したもの、意表を突くデザインで勝負するもの、そのまま遊べるもの、香り付きのものなど力作が揃う中で、大賞を受賞した（大分県）豊後高田市の作品は、ユニークなイラストが目を引き一方で、圧倒的な情報量の少なさと満載のあるある自虐ネタという組み合わせが、とても新鮮に映った。学生選考委員の、「情報量が少なすぎて逆に自分で調べようと思いました」と言うコメントは思わずそうそうと言ってしまいそうで、そこに作者の意図があるなら脱帽するしかない。優秀賞となった松浦市の作品は、テーマの絞り込みが楽しく、写真と比較できるイラストが秀逸だった。

## ◎個人賞

センター賞となった（鹿児島県）和泊町の OKINOERABU SAIGOU GUIDE BOOK は、ただでさえ美しい海に囲まれた魅力に溢れる南の島に、これまた誰からも愛される西郷どんに纏わる歴史上の出来事を重ね合わせることで、見るものに対し一層魅力的な地域として訴えかけ、是非訪れてみたいと感じさせることに成功している。西郷どんに関しても、徒に美化することなく客観的に記述されていることも好感が持てた。



# 第1回地域プロモーション大賞 受賞団体コメント

(第7回 ふるさとパンフレット大賞)

## 【大賞】大分県豊後高田市 《豊後高田!あるある本》

この度は、大変名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。

豊後高田市(ぶんごたかだし)は、JRの駅もマクドナルドもないけれど風光明媚な自然や海山の幸の地域資源、また伝統文化や文化財恵まれたまちです。それに加え、「人口増対策」や「子育て支援の充実」にいち早くから取り組み、ほかに類をみないユニークできめ細やかな支援を行っています。

『豊後高田あるある!』は、豊後高田市民が「常識」だと思っていることが、移住した方々には理解できない「ギャップのおもしろさ」に着目したことがはじまりです。

市内からその「おもしろネタ」を募集し、その応募いただいたネタにインパクトのあるイラストを描いてくれたのは、移住者と地域の橋渡し担う移住女子2人が中心の『楽しい暮らしサポーターズ事務局』です。

豊後高田市民の想いが詰まったこの『豊後高田あるある!』をぜひ、お手に取り、少しでも豊後高田市の魅力に触れ、また、豊後高田市の暮らしをイメージしていただければ幸いです。



## 【優秀賞】長崎県松浦市 《meets!まつら vol.14》

この度は、大変光栄な賞をいただき誠にありがとうございます。

北部九州の端っこにある港町、長崎県松浦市ですが、魚の旨さでは右に出る者はいない!と自負しているながら、いかんせん知名度はいまひとつ。この状況からどうやって前に出ていくのか?「宝」を見つけて、磨いて、大声で愛を叫ぶしかありません。「アジの水揚げ日本一」・「トラフグの養殖日本一」・「水中考古学の最先端」・「歴史とグルメと体験観光のまち」…数ある宝の中から、市長が見つけて叫んだ一言が「アジフライの聖地 松浦」でした。これが老若男女のハートに火をつけ、多くの方がアジフライを求めて松浦に来てくださることに!



今回受賞した『meets!まつら』が目指したのは、松浦にアジフライを食べに来ていただくことで、アジフライをはじめ、松浦市が海の幸や山の幸に恵まれた食材の宝庫であることを知っていただくこと、松浦市のファンになっていただくこと、そして何度も松浦市を訪れていただくことです。

この冊子が、多くの方の目に触れ、松浦市を知っていただくきっかけになればと願っています。

### 【南伸坊賞】 奈良県王寺町 《奈良県王寺町で楽しむ世界遺産ビュー 明神山》

このたび、「南伸坊賞」という大変光栄な賞をいただくことができ、とてもうれしく思います。王寺町の明神山は、標高 273.6m の低い山でありながら、360 度のパノラマが広がる景色のきれいなところですよ。

このパンフレットの制作では、明神山からの景色の美しさをいか

にして伝えるかが課題でした。当初は仕掛け絵本のようなものまで考えましたが、印刷する紙を正方形にして三角に折る方法に気づいたことで、伝えたい情報のすべてを表裏一体で盛り込むことができ、単純ながらもインパクトのあるパンフレットを、安価に仕上げることができました。

パンフレットを目にした方が、「なんだこれ?」と手に取っていただき、たくさんの方々に王寺町の明神山に登っていただいて、世界遺産ビューを楽しんでいただければ幸いです。もう一度言いますが、「南伸坊賞」に選んでいただいて最高です!



### 【楓千里賞】 鹿児島県奄美市 《SHIMA-JIMAN(シマージマン) 奄美市一集落 | ブランド》

奄美市は鹿児島と沖縄本島のほぼ真ん中に位置する奄美大島の中にあり、人口約 4 万 3 千人と小さくも自然や文化が自慢の島です。

奄美大島には、古くから豊かな自然を畏れ敬い、恵みを得てきた文化があり、その文化は琉球や本土の影響を受けながら独特なものとなっています。しかし、文明が急速に発展する今日、この奄美でも古い時代の言い伝えや文化が生活から無くなりつつあります。

また、少子高齢化が深刻な地域もありますが、持前の地域コミュニティの豊かさで人が集い、笑顔が絶えません。

このことから奄美市では集落の宝である自然・文化等をブランドとして認定する「一集落 | ブランド事業」に取組み、田舎回帰を図っています。

この冊子は、その宝越しに見える人・モノ・自然の背景や情景にも注目し、未来に残したい素敵な「思い」をテーマとしています。この冊子を手にした方が、いつか奄美に行ってみたいと感じていただけたら幸いです。~懐かしい未来へ~



### 【パッケン賞】 東京都奥多摩町 《BLUE+GREEN JOURNAL #6》

この度は、大変光栄な賞を賜り、誠にありがとうございました。

奥多摩町は、東京都の約 10 分の 1 の面積を有し、その 9 割以上が山林を占めている、東京都で最も広く緑が豊かな町です。

「BLUE+GREEN JOURNAL」は、「奥多摩町で暮らすことの豊かさ」を広く実感してもらうことを目的として制作しているフリーペーパーで、より多くの人々の記憶に残るようにするため、従来の観光情報パンフレットや移住情報パンフレットとは違った、個性的な誌面・コンテンツとしています。

現在は、年に 2 回発行しており、今回受賞した 6 号では「乗り物」をテーマとし



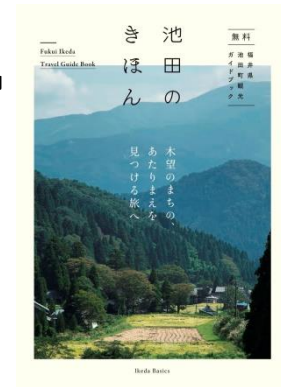
て、自転車、SUP、ハンモック、路線バスなど多岐にわたるコンテンツとなっていますので、ぜひ多くの方にご覧いただき、奥多摩町まで足を運んでいただくきっかけとなれば幸いです。

### **【マックン賞】福井県池田町《池田のきほん》**

人口約 2500 人の豪雪地帯。福井県で最も小さい町、池田町という農村が大好きだと言ってくれる制作チームと一緒に作ったパンフレット「池田のきほん」を評価していただき、ありがとうございます。

池田町にも、規模は小さくとも観光地と呼べるものが多少はありますが、リピーターとして来てくださる方は、もっと奥底にある違う魅力を感じているということを伝えたいと思い制作しました。また、15 年にわたり池田町に通い続けてくれる写真家の方が撮影した写真が、たくさん使われています。写真の力も感じてもらえればと思います。

とびらの言葉にあるように、「どこか懐かしくて美しい」池田町を、この「池田のきほん」を手に、巡っていたら幸いです。



### **【地域活性化センター賞】鹿児島県和泊町**

#### **《OKINOERABU SAIGOU GUIDE BOOK～南の島と「西郷どん」～》**

明治維新の立役者であり、日本人であれば誰でも知っている西郷隆盛ですが、時の藩主の後見人である島津久光の逆鱗に触れ、沖永良部島に遠島になった一年半の間に「敬天愛人」の思想を育み、わたしたちがよく知る革命家になっていった歴史はあまり知られていません。そんな沖永良部島の西郷さんをたくさんの人に知ってほしい。歴史好きの方々だけでなく、どんな層の人にも親しみをもって見ていただけるよう、硬い見せ方は避け、イラストで親しみやすいものを意識しました。女性を明確にターゲットにしたことで、逆に多くの人に手に取っていただくことにつながったと感じています。今回の荣誉ある賞をいただけたことを契機に、さらに多くの方に「沖永良部島の西郷さん」を知っていただけたら幸いです。

